

新聞配布を通して、
皆さんとお茶っさせてもらって、
あったかい東北の皆さんが好きになって、
神奈川から女川町に移住しました！
これからも皆さんと一緒に、
東北の地で歩んでいきたいです。

きずな新聞 ひで(女川)



震災から10年という月日が流れました。
未だに癒えぬ傷跡が
心に残っていると思います。
皆さんが明るい未来に
向かえるようこれからも寄り添い続けてます。
寒い時期ではございますので、
どうぞ、お体をご自愛ください。

日赤東京都支部 T

2011年3月末、石巻に支援へ伺った。
たった1週間だったが「日常」が
存在しない日々のなんと苦しいことか。
その中「遠くからありがとう」と
声をかけてくれた方。こちらこそありがとう。
その優しさと強さに救われた。
その後2回石巻を旅行した。
ファイト！ 私は一生忘れない。

岡山赤十字病院 じゅん



石巻赤十字病院で
救急・外来夜勤勤務をしました。
九州とは違い春なのに寒かったと
記憶しています。
遠くからよく来てくれたと驚きながら
私たちを労い励まして下さったことを思い出し、
今も感謝の気持ちで満たされています。
福岡より皆様の健康をお祈り申し上げます。

福岡赤十字病院 高橋美弥子

2011年4月19日から石巻日赤薬劑部の
業務支援に入りました。
避難所の皆様方から「薬が残り少ない……」
などと頼りにされ、大変な中にも日赤職員
としてとてもやりがいのある6日間でした。
石巻の皆さん、お元気で！
その節は大変お世話になり、
ありがとうございました。

長浜赤十字病院 西嶋長



震災当時、病院支援や巡回診療を行いました。
悲しみや困難な状況の中、
石巻の方々が必死に堪え忍ぶ姿が
脳裏に焼き付いています。
コロナ禍だからこそ、震災当時の
石巻の方々に見た“忍耐”・“我慢強さ”が
必要だと思いますし、その思いが
希望や未来に通じると信じています。

今津赤十字病院 堤晶子

震災後、十分な医療支援ができず、
もどかしく思っていました。
「来てくれるだけで安心します。ありがとう。
まあ一杯飲んでいってください。」
あの状況で謝辞を述べられた事、
さらにもてなそうとしてくれた事、
忘れられません。今度は旅として、
皆さんの優しさに触れたいです。

大分赤十字病院 大野

皆さんとの出逢いは、
大切な思い出の
1ページになっています。
コロナが終息して再会できる日を
心待ちにしています。



きずな新聞 さらい(東京)



もう10年になるんですね。
新型コロナのため、
石巻とは1年間ご無沙汰してしまいましたが、
また会いにいきますね。
時間が経っても悲しいお気持ちは
変わらないと思いますが、
少しでも元氣出してもらえると嬉しいです。
新聞配りにいったらお話ししましょう。

きずな新聞 佐藤俊一/しゅん(東京都)



集会所でマジックショーをさせていただいた
タッパリンの妻です。
夫も私も、早く石巻に行きたくて
ウズウズしています！
コロナが早く治まるといいですね。
作り笑いでも何でも、笑うと心がほぐれて
楽しくなるのだそうです。どうか笑って
免疫力を上げて、お元気でいらしてくださいね。

きずな新聞 大西小百合(愛知)



震災直後の光景はいまでも忘れられません。
震災から10年が経とうとしていますが、
今も仮設住居に住まわれている方をTVで
拝見し胸が痛みます。
完全な復旧・復興が一日も早く実現するよう、
他県からも応援しています。
また石巻へ行ったら
元氣な顔を見せてください。

浜松赤十字病院 佐々木昌俊

明かりが消え暗闇に包まれた街で、
懸命に力強く生きようとしていた
皆様の顔を思い出します。
この10年、少しずつ復興に向かっていく
という話を聞き、自分のふるさとが
蘇っていくような嬉しい気持ちになりました。
今度お会いする時にはお互い笑顔で
ご挨拶ができるといいですね。

日赤医療センター 千田



今でも後悔しています。なんでもっと
多くの方の力になれなかったのかと。
これが今でも災害医療に携わっている原点です。
「災害で辛い思いをした人に寄り添いたい！」
石巻での教訓を胸に熊本の地震や
豪雨で救護活動を行いました。
皆様のことは忘れません。
どうか、お元気で！

日赤熊本県支部 長谷川秀



10年前、私が所属した救護班は、
蛇田中学校に救護所を立ち上げ、
地域の皆様の受診のお手伝いをしました。
私たちのほうが緊張のあまりうまく
支援ができている状況でした。
そんな中でも、整然と診療を受ける
皆様の姿に、石巻の“強さ”を感じました。
その光景は、今も忘れられません。

成田赤十字病院 浅野慎治

10年間、
たくさんの涙と笑顔とを皆さんと共有しました。
直接お会いした方、
紙面を通して出会ってくださった方、
すべての出会いに感謝です。
11年目のこれからも、共に歩んでいまいしょう。
あの日を生き抜き、
そして今日まで生きてくれて、ありがとう。

きずな新聞 岩元暁子/あき(東京/石巻)

